私の工夫

倉敷支援学校 交流及び共同学習の取組

倉敷市立倉敷支援学校
小学部教頭　佐藤　義弘

1　はじめに

倉敷支援学校は知的障害の特別支援学校で、県内唯一の市立の特別支援学校である。中国地方の知的障害の特別支援学校の中では最も歴史が古く、今年創立52年目になる。児童生徒数は小学部73名、中学部46名、高等部85名、計２０４名である。本校では、児童生徒が将来の地域での社会参加に向けて、交流及び共同学習に力を入れており、居住地校交流と近隣の小中高校との学校間交流の２本立てで行っている。

2　居住地校交流

小学部では「フレンド交流」と名付けている。これは地域の友達といつまでも仲良しでいようという意味である。本校の児童が居住地の児童と共に活動することを通して、地域での関わりの輪（和）を広げていってほしいと願って行っている。希望者は１年に１～２回、居住地の学校の通常学級か特別支援学級で授業を一緒に受けたり、行事に参加したり、休み時間に一緒に遊んだりしている。小学部では毎年約半数の児童が保護者と参加している。参加した児童からは「楽しかった」「一緒に勉強したり遊んだりできて良かった」「来年も行きたい」など、保護者からは「幼稚園で友達だった子供さんと再会できて楽しそうだった」など好意的な感想が多く聞かれる。

中学部でも約３分の１の生徒が行っている。各居住地校では、工夫した授業で迎え入れてくださり、楽しく充実した交流学習が実施されている。

児童生徒たちの将来の地域での生活につながる一歩として、大切な学習となっている。

フレンド交流の様子

3　学校間交流

近隣の小中高等学校との学校間交流も盛んに行っている。

小学部は約20年以上前から近隣の粒江小学校と交流を行っている。本校のねらいは「いろいろな友達とふれ合ったり一緒に遊んだりすることを通して、交流することの楽しさを味わうことができる」であり、粒江小学校のねらいは「倉敷支援学校との日常的な交流を通して、障がい者に対する理解を深め、互いに認め合い、ともにたくましく育つことができるようにする」である。粒江小学校から学年ごとに約１００名の児童が倉敷支援学校に来て、校内見学をし、その後、各教室に分かれて入り交流活動を行っている。また、本校小学部の高学年は粒江小学校を訪問し、ふれあいゲームと音楽発表会を中心とした楽しい集会に参加している。本校の児童は交流をとても楽しみにして、準備や練習に取り組んでいる。粒江小学校の児童は障がい

についてしっかり学習をして交流に臨んでおり、本校児童に対して温かく優しく接しているため、とても楽しく和やかな雰囲気で交流ができている。これらの活動で、粒江小学校の児童は障がい者理解を深め、お互いを思いやる心が育ち、不登校児童のいない状態が続いている。

粒江小学校との交流の様子

中学部は近隣の新田中学校と交流している。本校1年生と新田中学校の特別支援学級との交流会の他に、昨年度からは新田中学校1年生の通常学級全員二百数十名と中学部全員との交流会も実施している。本校生徒が和太鼓を披露した後、新田中学校生徒の企画でゲームやダンスを一緒に行い、相互理解を深めている。さらに、この交流の一環として、本校のサマースクールにボランティアとして、のべ27名、新田中学校から生徒と先生が参加してくださった。生徒同士が声を掛け合いながら一緒に活動している様子は、とても自然で和やかなものであり、生徒同士の心の交流を今後も続けていきたいと考えている。

太鼓の演奏の様子

高等部は県立倉敷中央高等学校の行事に参加したり、県立倉敷中央高等学校の生徒に夏祭りをはじめ本校での活動に参加してもらったりしている。レクリエーションや作業学習を共に行いながら互いに学び合うことができている。また、今年は手紙等のやりとりも行い、相互理解の取組をさらに進めている。

作業学習（園芸班）の様子

4 終わりに

どの学部の交流及び共同学習においても、共に学び、活動する様子は、笑顔と温かい言葉や関わりがあふれ、確実に相互理解が進み、目的が十分に達成されていると感じている。本年度は新田中学校からチャレンジワークで生徒が来て3日間積極的に児童と関わってくれた。倉敷支援学校を選んだ理由を聞くと「福祉の仕事に興味があるので障がいについて学びたい。障がい者に対する偏見をなくしたい」と語っていた。交流及び共同学習を推進することで、幼い頃から障がい者とふれあい、障がいについて知ることで偏見がなくなると思う。また、関係する児童生徒と保護者だけにとどまらず、地域全体に、障がいに対する理解や、思いやりの気持ちが醸成されていると感じている。今後も積極的に交流及び共同学習を進めていきたいと思う。